

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0591100011		
法人名	社会福祉法人 北秋田市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームふなみ		
所在地	北秋田市鷹巣字本屋敷114番地3		
自己評価作成日	令和5年9月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームの近所にある小学校から運動会や学習発表会への招待を受けた実績があり、利用者は世代間の交流の場を持つことが出来る。又、敬老会に地域の婦人会の方に来て頂きホームの敬老会と一緒に祝ってもらったり、町内会の避難訓練にホーム職員が参加する等の実績があり、ホームと地域住民との繋がりを保つことが出来ている。更に、毎月お便りを町内へ回覧し、グループホームが地域住民にとって身近な存在であり続けられるよう努めている。現在は、まだまだコロナウイルスの影響が懸念される為、以前に比べ利用者の他者との交流や屋外での活動は少ないが、状況に応じて少しずつ活動や交流を増やしていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の了承を得ながら職員の気づきや目標を話し合っ職場環境の改善に繋げる等、意欲的な取り組みが行われ、ケアの充実を図ることができています。利用者の心身の状態に合わせた働きかけで機能の低下防止と生きがいのための暮らし方に活かされ、介護度が改善されたパターンもみられます。自粛していることが未だ多いものの、コロナの終息を待ち、再開できることを検討しながら全職員で利用者のホームでの暮らしを支えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示しいつでも確認できるようにしている。	年度初めに理念に基づいたケアができるよう職員に話し、その実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、以前の様な交流は少なくなっているが、毎月お便りを発行し施設内の様子を周知してもらうようにしている。	地区の敬老会の案内や野菜のお裾分け、また、子供神輿の披露もあり、状況をみながら交流の機会を増やしています。地域の一員となっていることから、離設する利用者への対応についての協力も得られています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の行事に参加する等し認知症の方々への理解を得られるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催できていない為、書報告事項を2か月に一度書面で報告している。	書面会議を継続しています。状況報告にとどまっているため、サービスの向上に活かすためにもメンバーから意見が得られる工夫を期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入所待機者の人数を報告したり、入所に関して分からない事があれば対応など相談している。	相談事項に対応していただく等、情報交換を密にし、円滑な協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止検討委員会、身体拘束適正化委員会を開催し状況報告する事で情報を共有している。又、勉強会で資料に沿って勉強している。	研修等を通じて職員の理解に繋げ、状況に応じて対応を話し合い、身体拘束、虐待のないケアに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での会議の中で制度について勉強会を開催し、各事業所でも学ぶ機会を設けている。又、必要に応じて制度を活用している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約については入所時に説明をしている。又、改定等あった場合は文書と口頭で説明を行っている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	年1回家族アンケート調査を行い意見等集計して対応できるものに関しては直ぐに対応する努力を行っている。	面会時や電話で意見、要望を聞いています。苦情等はないようですが、管理者に限らず、どの職員も家族と対応できるようにしています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	職員面談を年1回行い、意見交換や希望する環境など聞いている。又、そこで出た意見は上司にも報告し対応できるものは対応するようにしている。	リフレッシュ休暇の取得等、ホーム独自に決定した事項もあり、職員の意見、提案が反映されています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡調整会議を年1回行っている。又、入所などに関しては他の事業所とも相談したりし状況報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談をすることで何に困っているかや不安に思っている事などを聞くようにしている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族の意向を聞くと共に要望などの確認も行っている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日課に応じた声掛けを行っているが、無理強いせずに本人の生活ペースを優先して対応している。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は電話連絡や面会などを利用して本人の状況報告を行っている。又、家族と情報共有し支援の在り方などを話し合い協力を得ながら対応する関係が出来ている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	コロナ禍もありなかなか外出・外泊が出来ていないが、手紙や電話でのやり取りは個々に行っている。	面会は玄関に面した事務所内に限って対応していますが、手紙をくれる家族もあり、制限のある中でできることを工夫しながら関係継続の支援に努めています。訪問理美容の方との馴染みの関係は続いています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を把握し声掛けや見守りを行い自然な形での交流支援に努めている。又、状況に応じて職員が間に入り交流する事もある。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所となってもご家族からの相談についての問い合わせにはその都度出来る範囲で対応するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	入所にあたって、今までの習慣など聴き取りをしてアセスメントを作成している。聴き取りが困難なケースでは日頃の本人の言動などから読み取っている。	普段の会話やこれまでの生活から意向を汲み取るようにしており、気付きと共に連絡ノートや日誌で情報共有を図っています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメント作成の際に本人との普段の会話のやり取り、関わり合いからこれまでの生活歴などの情報を得ることができ職員間で共有している。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	感染対策として、家族には電話による意向確認を行っているがケアプラン更新時にはカンファレンスを開催し現在の状況や今後についても話し合い作成している。	担当職員のモニタリングを経てカンファレンスを行い、全職員の意見が反映された介護計画を作成しています。家族の意向は事前に確認しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	介護記録としてタブレットを活用している。いつでも日頃の様子を確認出来ている。又、申し送りノートもあり利用者支援にあたっては注意点なども記入しており回覧して目を通すようにしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、感染対策として思うように外出や外部との関わりを持つことが出来ていない。今後については検討中である。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の定期受診で問題なく対応出来ている。変化があれば直ぐに家族へ受診結果などを伝えている。又、急変時の受診にも看護職、介護職と連携して対応している。	入居前からの医療機関で継続して受診しており、通常は看護師が対応しています。他の職員、家族が受診介助することもあり、それぞれが情報を共有しています。歯科受診については訪問診療が対応可能であり、薬局とも協力関係を築き、適切に支援しています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	皮膚状態や体重の変化などいつもと違う状況が見つかった際は、看護職に報告し相談する体制が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合は、病院側と施設側とで情報共有を図り、適切な医療が受けられるよう支援している。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に重度化した場合や見取りに関する指針を記載しており、入居前に利用者や家族に説明を行っている。又、終末期についての意向も確認している。	かかりつけ医の対応が可能かどうかは課題ではありますが、家族の希望にできる限り沿えるよう支援しています。終末期には夜間の職員を2人体制にする等、職員の負担を軽減する取り組みも行われています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回勉強会を行っている。又、初期対応についてはヒヤリ・ハットや事故報告時に対応策を話し合い対応したことがない職員へは教えるようにしている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に1回災害に備えた避難訓練を行っている。又、町内の方々にも避難の様子などお便りで伝えている。又、火災の際は町内会の方々がかけてくれるようメンバーを決めてくれている。	水害危険区域であり、垂直避難の準備をしたり、避難指示に従って行政と連携して避難を経験しています。その時の経験を今後活かすことができるよう対策を検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の心身の状態に合わせた言葉かけを行うよう心掛けている。	勉強会を行い、日常の関わりの中で気配りできるよう気をつけています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の能力に応じて衣類を選んでもらったり季節に合った装いになるよう支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前に個々の好みを把握し、それを元に食事の提供を行っている。又、調理下ごしらは手伝ってもらい、何に使うか説明しながら行ってもらっている。行事食や昔ながらの作り方等話ながら行っている。	プランターで野菜を植え、収穫した野菜が献立にあがります。また、お正月や敬老会等の行事の際にはいつもと違う形で食事を提供し、楽しむことができるよう工夫しています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の1日の水分量、食事量を把握し、少ないと思われる場合は細めに声掛けを行い、健康管理に努めている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自ら歯磨きを行った後、磨き残しがあれば介助し口腔ケアを行っている。又、口腔内に異常がある場合は、歯科受診をするよう体制を整えている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で常に状況を把握しており、個々に応じて適切なパットを使用できるよう支援している。	排泄チェック表を活用し、トイレでの排泄を基本にしてできる限り状態が維持できるよう支援しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設内の散歩や体操を毎日行う事で身体を動かしたり、水分を多めに摂取してもらうなどして便秘の予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2~3回入浴が出来るよう体制をとっている。当日の体調についても事前に確認している。浴槽の温度も個々の好みにあわせて調整している。入浴日は希望に応じた入浴となるよう努めている。	全員が湯船に入って入浴できています。拒否がある時には無理強いせず、入浴日を調節しながら清潔が保てるように支援しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的な日課に応じた生活を送っていたが、その中でも休息したり、活動したり自由に過ごせるよう今までの生活習慣に合わせて支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用や服薬に関して相談等ある場合は、看護職を通して医療機関と連携を図っている。又、服薬の変更、追加などがあつた際は、服薬後の状態を看護職に報告するようにしている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある生活を送れるように個々の出来る事、出来ない事を見分け余暇活動を提供している。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は感染対策の面から思うような外出、地域との交流ができていない。今後は少しずつ戸外に出掛けられるよう支援していきたい。	個別の希望に応えることは未だできませんが、ドライブしたり、子供神輿を見物したりと少しずつ外に出る機会をつくっています。プランターで野菜や花を植えたり、散歩をすることで外の空気が吸えるよう支援しています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、施設でお金の管理、保管している。買い物は職員で対応している。数名の利用者の方がおこづかいを持っており財布に入れ自己管理している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	通常の清掃とは別に1日に何度も消毒作業を行っている。共有スペースや廊下には季節感を取り入れた貼り絵を作成し展示している。	掃除や消毒作業を利用者も手伝い、清潔に管理されています。広い廊下の一角に椅子を置いて休憩やトイレの順番待ちに利用される他、新聞や雑誌を利用者の目が届く場所に置くことで利用しやすくしています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓テーブルを数ヶ所に設置し自由に過ごせるように工夫している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や仏壇を持ってくる利用者がいるなど個々の希望に添った居室空間になるよう支援している。	利用者の状態に合わせてベッドから布団に替えたり、置き畳を使ったりして利用者それぞれに合った生活環境がつくられています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターの設置はあるが、階段を利用できる方には階段を使ってもらい心身機能の維持に努めている。又、「トイレ」など張り紙を目線に合わせて掲示し分かりやすいよう工夫している。		